

ちゃぶ台次世代コーホート（第2回研修会）開催要項
同 Advanced Course（第5回研修会）開催要項

- 1 趣 旨 教職志望学生と若手教員等が、教員としての資質の深化、教職実践課題の解決力や省察力等の醸成を図ることを目指した協働型教職研修を行う。
特に、周南市を会場とする県内巡回型公開講座として実施し、フィールドワークをとおして、教職キャリアの形成や充実深化を図る。
- 2 主 催 山口大学教育学部・教育学研究科（教職大学院）
独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター
- 3 共 催 山口県教育委員会、周南市教育委員会
- 4 開催日時 令和5年11月3日（祝） 9：30～12：00
- 5 開催場所 周南市徳山動物園
〒745-0874 山口県周南市大字徳山 5846 Tel: 0834-22-8640
周南市文化会館
〒745-0874 山口県周南市徳山 5854-41 Tel: 0834-22-8787
- 6 参加者 教職志望学生、教職大学院生、現職教員、教育委員会等関係者、大学教職員等
- 7 研修内容
(1)開会行事
あいさつ 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二

(2)フィールドワーク
テーマ 「フィールドワーク ～動物たちの生態と人との距離～」
指導者 周南市徳山動物園 園長補佐（獣医師） 木 原 一 郎 さん
同 飼育員、職員の皆さん
開発演習 「徳山動物園を含む地域の教育資源を探る」
指導助言者 山口大学教育学部・教育学研究科、山口大学センター教職員等

(3)閉会行事
8. 「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」にもとづく取扱（お願い）
(1)本研修では、主催者として「感染防止の5つの基本（厚生労働省 ADB,2023.3.8）」を参考として感染予防に努めるとともに、受講者一人一人に感染防止に向けた責任ある行動を要請する。
(2)研修地域や受講者居住地の感染状況や推移、研修関係者の意向等をふまえて、研修行事を「中止」や「延期」とする場合がある。
9. その他
(1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。





この国の学校教育を外から眺めて...今が変革の時!教育の本質を見直す時!

真っ青な空が広がっています... 空気が綺麗です... 清々しいです... 深まる秋を感じます...そんな10月14日、早朝から広島・山口の先生たち(24)、教職大学院生たち(8)、NITS(茨城)の飯干・村山研修プロデューサーさん、教育庁教職員課の杉本先生と大学の関係者(14)の49人が山口市の「セントコア山口」に集まってきました。

今回は午前が「ちやぶ台次世代コーホート」の「Advanced course」の研修会、午後は「同 Basic course」に乗り込んでの合同研修会でした。それぞれの教員として力(資質能力)や人としての器に「ますますの広がり」と「深まり」があった日の「学び」を報告します。



講義「フィンランドから眺めた令和の日本型学校教育」

信州大学学術研究院・教育学系 教授 伏木久始 さん

都内の小・中・高の教員や大学講師を経て信大にお勤めの伏木先生。教員養成をリードされながら、長野県教育委員(教育長職務代理者)のお仕事や県内外の現場指導に奔走される日々。まさに教員の養成・採用・研修を束ねての指導者です。フィンランド国立教育研究所(研究員)時代の内容も入れて頂きながら、この国の学校教育を鋭くえぐって頂きました。伏木先生、長野・東京・岐阜ツアーの真っ只中にもかかわらず、快く山口にご来県の上、レベル高いご講演を頂きました。本当にありがとうございました。



はじめに

- 日本の教育を国際的な視野(フィンランド)から捉え直してみると、「日本型学校教育」とは、どのように説明できるのだろうか?
- これからの日本の学校教育が目指していく方向性とは、従来の日本型学校教育の何を継承し、何を棄てていくことが望ましいのだろうか?
- 学校の「当たり前」をダウングレードし直す。

◎前項として共有しておきたいこと

他国の専断で「見える教育」や「取り分け取り取って議論することの困難性」
↓
地理的・歴史的背景や社会制度、教育理念などとの因果関係を理解する

フィンランド人の暮らし方①

- フィンランド国民が悪い慣習と現状のギャップが少ない
 - World Happiness Report: 2021年連続世界1位(2022年2位)
 - あらゆる職種で労働時間は週平均37.5時間(残業はほとんどない)
 - フレックスタイム(在宅勤務(3割))、有給休暇は毎年100%使い果たす
- 男女平等と公平でフラットな組織・人間関係
 - 職場でも家庭でも男女平等意識が100%の育児休暇(2週間)
 - 企業でも学校でも、上下階級を揃いアーストネームで呼び合う
 - ボラスタ型の人事制度や平等な階級意識がほとんどない
- Well-beingを高める在り方
 - 健康にもとづくマネジメント(数値や公認資格に対する意識度が高い)
 - 業務にトイ化する監督が与えられる精神性
 - お互いの強み弱みをかみし合って創造する創造性
 - 多様性を尊重する社会的価値観

フィンランド人の暮らし方②

- 勉強を楽して生産性・効率性を重視
 - デジタル化・カード社会、ペーパーレス社会
 - 形式だけの書類な処理がない
 - 個性ある個人を喜びより組織にしたいという理念
- 自然の中で健康的な生活を大事にする生き方
 - 森の中のピクニックや湖畔でのウォーキングや冬のスポーツを楽しむ
 - 学校や会社内にももちろんあらゆる施設にサウナが備わっている
 - 週末には種々な行事を行い、遠くの家や街でリフレッシュする
- 生涯学習社会(1970年代～)
 - 「生涯学習」から「終身教育」へ、一貫しながら大学で専門性を高める
 - 人と競争するのではなく自分多知り自分多高のために学び続ける
 - どの業界でもリスクリングは重視され、特に失業者は優先される
 - 大人が学び続けている(通称のため、転職のため、昇進のため)

受講者のコメントから



受講生の「振り返り」...今回は今まで以上に「この国の教育に対する鋭い眼差しと変革に向けた熱い想い」が溢れる「迫力あるコメント」が多かった気がします。紙面の都合で一部しか掲載できなくて残念ですが、これも伏木先生のおかげと感謝しています。

お話から、フィンランドの教育や社会が「信頼」を前提に構築されているのが分かりました。他者や組織に対する信頼が基盤としてあり、その上で教育を考えるから、結果として一人ひとりが大切にされる教育にたどりついているのでしょう。

教員として働きながら、今の日本の学校現場は「説明責任」が重く見られていると感じます。説明責任それ自体は否定しようのないものですし、重く見られるのも当然だと思うのですが、説明責任を果たす為の業務が肥大化して、結果として教員が子どもに向き合う時間が減るという虚しい状況が生じていると思います。フィンランドが性善説を前提として教育を発想しているのに対し、日本は性悪説が主流になりつつあるように思われます。

今年度、本校でも育休の代替者が見つからず、生徒指導主任や教務主任が担任を兼務することで、辛うじて学校を運営している状況です。フィンランドの教育の話聞いた後、今の学校現場の余裕のなさ、働き方の厳しさを省みると、暗澹たる思いになりました。午後の協議では前向きで具体的なアイデアがたくさん出ましたが、教員としての経験を重ねるに連れて、現場の教員ではどうしようもないことも多くあることを感じてきました。

フィンランドの教育をそのまま日本で進めることは、伏木先生が冒頭におっしゃったようにナンセンスだと思

ますが、一人ひとりの子どもの学ぶ権利が尊重される学校、社会は見習うべきだし、目指すべきだと思います。行政の大鉈を期待したいところですが、まずは現場で子どもたちに接する私たち教員が今の日本の学校とは異なる発想で教育を行う国があることを知り、認識を深めることがよりよい日本型学校教育の一步になると確信しています。(小学校)



「生涯学習」から「継続教育」へ。教職大学院で学ぶ機会を頂いたことに感謝している。教育現場で経験を重ねた上で、再度、教育について学ぶことができたことは、ある意味、継続教育であると思う。このような機会がフィンランドでは当たり前となっているようである。同時に「継続教育」を実現している社会的背景は何なのだろうか、という問いが生まれた。この問いに対する考察は次のようなものである。

1990年代に経済危機に陥った経験が、継続教育を充実させる必要性と必然性を作ったと思った。それまでは経済成長し続けたが、成長が止まり、下落していく。これまでの世界の歴史からも、大きな発展のあとは大きな何かが起こり、国家の存亡すら危うくなることが事実としてある。自国と世界の歴史から学んだフィンランドは、国民の資質や能力を向上させるために、制度を整え、支援体制を構築したのだろう。支援体制を整えるということは費用がかかる。しかし、国家の成長が止まり、さらなる経済危機に陥るより、長期的な視点に立ち、予算を確保しているのだと私は考えた。このように考える機会をいただいた伏木先生に感謝すると同時に、今後も、「見える部分」だけでなく「見えない部分」にも視野をもち、「本質的・多面的・長期的な視野」をもてるよう、学び続けていきたい。(小学校)

2. フィンランド教育の主な目標

- 国が定める学習指導要領(シラバス)
 - 縦横(7R15T)
- 地方自治体ごとの特色性を保障(地方分権)
 - 縦横(7R15T)
- 学校・教師の創意に委ねる実践(裁量)

【教育現場の本来的なスタンス】

- 協働的取り組み(グループワーク)の重視
- 機動的な対応(家庭の経済的負担を軽減させない)
- 「平等」より「重視される」公正
- 教科書検定と基礎教育段階での標準テストの廃止
- 発達評価 developmental evaluation
- 無償(義務教育では授業料、教材費、給食費、交通費)
- それぞれ異なる学習への応じた教育(誰かと比較せずに自らを専攻。→「競争」は皆無に近い)

6. 子どもは社会の一員

フィンランド教育の特徴の一つ = アントレナー教育(起業家精神)

- 保育園・小学校・中学校・職業学校・大学すべてで重視されている。
- 「私は社会に影響を与えられる・変えられる」というフィンランドの育成自己効力感、行動力、リスク管理、協調性や果敢な行動、粘り強さ、など

海外からみた日本の学校教育の特色

- 以下、多くの公立学校にみられる一般的状況をご紹介してみました
- 敷地内に社会よりも広いグラウンドと体育館とプールがある
- 小中学校の学校運営(司教員)と人権道徳指導(部道徳科)が異なる
- 教育委員会による定期的な人事異動のコントロールがある
- 学習指導要領における教科等の取扱いが具体的に詳細である
- 教科書検定が維持されており教科書に同じテキストで進学の進捗がわかる
- おしこもりが多く、専任に合わせて適切な正しな指導(礼)をする
- 毎年11年未満の児童が「学校教育目標」がある
- 学校ごと、学年ごとに共通の「目標」を立て、個人の「目標」も設定する
- 学校ごとに特色あるものを軸として相互協力システムを導入している
- 教室に教科を揃えて子ども同士で協働的学習を行う
- 指導者を決めて毎日どのように子どもが学校生活を行う
- 学校行事の「準備」の日に準備期間を編成して、準備期間を設ける
- 基礎学習の準備期間、夏休み前の復習に有償的に指定する学校が多い
- 臨時や非常勤教師のPTA活動や分科会として学校内の管理委員会との連携が図られている
- 小生だけで来校者数が多い一方、学校中に教員が学校外の道まで見守る

他国の事例を比較する際、データだけ切り取って見るだけではダメだということを学ぶことができた。地理的・歴史的背景・教育理念などの因果関係を踏まえて、他国の教育について考えることが重要である。データだけを切り取って見てしまうと、比較はすることはできるが、なぜそのような教育を行っているのか、因果関係について考えず、表面的なデータだけを見て捉えてしまう恐れがある。

伏木先生はフィンランドの教育だけでなく、フィンランドの国の地理や国民性等、文化についても丁寧にご説明くださったので、フィンランドの国についてイメージし、その上で教育について考えることができた。

フィンランドと日本の文化の違いについて大きく3つのことが印象的であった。

- 1つ目は、「自分がどのような選択をしたいか」を重視すること。→自己選択・自己決定
- 2つ目は「自分のよさを生かし、不得意な部分はひとの力を借りる」という考え方をすること。→自立
- 3つ目は、「多様性教育は平等より、公正が重視」されていることである。→合理的配慮

どの考え方も特別支援学校の学習指導要領「自立活動編」に記載されており、児童生徒の自立と社会参加を促す上で重要な視点である。

特に、「不得意な部分はひとの力を借りる」という考え方が印象に残った。日本では、人に迷惑をかけないことが重んじられており、どんなことも一人でできることが自立のような考え方になっているが、フィンランドでは自分ができることは人の力を借りることが大切だとされているため、「ヘルプ」が言えることが必要になる。国の文化が違うと、国民の考え方も異なるため、教育の理念も変わってくるのが分かった。また、フィンランドの教育について学んだことで、改めて日本の教育の質の高さについて気付くことができた。日本は教材準備に時間をかけていたり、おせっかいというくらい、学校を離れても指導支援を行ったりしている。家庭とも連携しながら教育を進めている。特別支援学校では、話すことが難しい子どもたちも多く在籍しているため、家庭やその他サービス等との連携は不可欠である。日本の教育のよさを生かしながら、他国の教育理念のよさを取り入れていくことで、さらに日本の教育の質が向上し、インクルーシブ教育の推進にもつながると考えた。

フィンランドの文化や教育理念を学び、「多様性」について、もっと考えていかなければならないと思った。学校現場や普段の生活の中で、自分と異なる人を排除する考え方ではなく、まずは相手のことを知ろうとすることから始めたいと決意した。(総合支援学校)



暮らしが最初で、その中で教育が営まれている印象でした。社会や生活と教育が切り離されているから「社会に開かれた教育課程」が言われるのかなと思う。特に、山口県の「進学校」と言われている学校で行われている授業は、生活とのつながりが感じられない。これまでの学び、進学先での学びとのつながり、単元間のつながりや教科間のつながり等を感じられる要素が少ないと感じます。教員がそれを意識しないのだから、いわんや生徒



はそんなことを考えることはないのかなと思うと残念な感じです。

ひとり立ちできるように教える、学ぶというのは大事だなと思います。日本の中では、「甘え」が構造的にあり、生徒も保護者も、学校が、教師が「やってくれる」という前提があると思います。そして「やってくれない」という不満につながっている気がします。また、教師自身でさえ、「生徒のせい」「この生徒だから仕方がない」的なことがある気がして、誰も学びの主導権をとらない、グリップを握らない環境や社会構造があるのかなと思いました。

フィンランドでは trust に基づいて任せる構造になっていると仰っていて、かつ教員になるのに waiting list があったり、実習が長かったりするという事等から、もっと責任を持って「プロ」としてやってるのかなあと感じた。信頼して任されるがゆえに厳しく、責任が伴うと思います。信頼と甘え、信頼と放任・放置は違うぞ思いながらそんなことを考えました。

同時に日本では、高校や大学を卒業したら「勉強は終わり」だと信じているというか、そう思いたくなるほど「嫌になる」勉強を、文字通り強いられているのかなと思う。目的は上級学校に進むため、就職のため、卒業のためのような意識が多いと思う。フィンランドの話にあったように、「学ぶ」ことが日常で、生涯学習社会が根付いて、自分を磨くために学んでいくことが作法として身につけてくれば、学びに対する意識が変わってくるのだろうと思った。ちょうど、教科書で北欧の話を取っていて、このフィンランド教育の話聞いたことも相まって、フィンランドに移住したくなりました。(高校)



①得意の自覚と不得意の自覚(自らの不得意の部分は、それを補う友人と繋がれば良い。これを「自立」と呼ぶ)、②そもそも横並びの意識がない、③子どもは管理する対象や保護する対象ではなく、大人と同様に社会人である等、フィンランドにおける教育的特徴について学ぶことができた。フィンランドの教育的特徴について憧れと期待の念を持つとともに、現在の日本の学校教育への転化の難しさも感じた。

転化させるためには次の工夫が必要となると考える。ひとつは、理想を明確にし、共有することが重要である。具体的な理想を設定し、関係者で共有した上でそれに向けて取り組むことで、フィンランドにおける細かな教育施策の導入を実現できると考える。次に、日本の教育体制やカリキュラムに適応させる必要がある。導入を検討する教育施策が、子どもや保護者、地域のニーズに適したものであると広く周知していく必要がある。(小学校)

1年間にわたるフィンランドでのご経験を、大変分かりやすくお話していただき、大変感謝しております。教育を中心に、フィンランドの社会、国のあり方、フィンランド国民の価値観や考え方で、「令和の日本型学校教育」を思考するきっかけに溢れる時間となりました。

コミュニティ・スクールの導入により、学校現場では、地域や社会に目を向ける、視野を広げる教職員が少しずつ増えている実感があります。変化の激しい時代において、学校の内側だけを見ているだけではなく、外に目を向けたり外から学校を見つめたりすることがより一層重要だと感じています。ご講演から、その想いを改めて強くしました。



ご講演で、印象に残っていることは、「平等から、公正さが担保されている、そして環境を変えればハンディキャップは生じない」というご説明をされた部分です。プロである教師に求められる資質は、この環境を整えるという部分ではないかと感じる事が多くあります。ユニバーサルデザインの考え方から、SDG'sへとつながってきた流れを踏まえ、共生社会の実現に向けて学校教育で出来ることを考え続けていきたいと思っています。(中学校)

エージェンシー (AGENCY) を高めた教師になる

一冊の本:『ハチドリのはたとすく』

***「私は、私にできることをしているだけ」



一人異議で取いても友人あつかいされて、まともに取り上げてもらえない、漢方をつけれない。
二人きりでも、両手を交える力にはならず、距離を覚えることは難しい。
でも、二人の同士が三人目の誰かとゲームを頼んだら...
さっさと向かが始まる

さあ、皆さんの出番です。
教師と子どもの心理的安全性を高めた学校づくりへ

伏木先生のお話を伺い、制度や教師の待遇だけをみると、フィンランドの教育が「羨ましい」と単純に思った。しかし、社会構造を見なければその本質がわからない、という伏木先生の最初のお言葉がずっと心に残り、日本はどうすれば今言われているブラックなイメージを脱却できるのか、を考えながら、半日を過ごした。

一番に考えたのは「当たり前を疑え」ということだ。子どものために当たり前前に日本の教職員が行っていることが、見方を変えれば「おせっかい」になってしまったり、教職員自身の働き方改革を阻害したりしていたかもしれない、ということが、海外を知り、比較することで見えてきた。例えば全国で教育内容を揃えなければ転

校等があった時に子どもが困るだろう、というのが日本の発想だが、フィンランドでは、地域によって教育内容が違うのが当たり前。この違いはどこからくるのだろうか。お話を伺ううちに考えたのは、平等を考えた日本と、公平を大切にしているフィンランドの違いなのではないか、ということだ。

日本の教職員は、どの子にも平等に知識技能を身に付けさせ、取り残さないように必死になって頑張ってきたと思うが、フィンランドでは、個々の違いを当然のものとして、それぞれに合った環境を整えようとしている。今、日本の教育の中で頑張っているのにうまくいかないと思われる部分には、平等から公平へ向けた発想の転換が必要なのではないかと考えた。今後、個人的には多様な子どもの育ちを特別支援教育や教育相談の側面からしっかりと学び、今の教室環境でできる最善の策と、今後環境の改善でできることの両面を考えると大切にしていきたい。制度や行政を言い訳にしないで、学校の内側から変えられることを見つけていきたいと考えた。(小学校)

近年のフィンランド教育の変化

- 地方行政の予算削減・経費削減戦略
 - 小規模校の学校統廃合の顕著な動き
 - 人件費の抑制のための経費削減
- 学校・教員に対する社会的地位の低下傾向
 - SNSの普及とオンライン教育の進捗の代償
 - 保護者や子どもたちの多様化と教員の多忙化
- 学校をめぐる新たな動き
 - 移民の増加とPIISA等大規模校の低下
 - 特別支援学校から地域の一般校へ転校する子どもをめぐる課題
 - 情報リテラシー教育(フェイクニュースへの対応)
 - 小学校と中学校の校舎統合による「総合学校」への移行
 - 乳児から小学校低学年までの「ダイケアスクール」の拡大
 - 校内職業経験や協働した取り組みの積極的拡大

特に印象に残ったことは3点です。まず、「教科書がなくても、カリキュラムマネジメントをして授業を構築する力が求められること」です。9月に授業実践に向けた教材研究に取り組んでいた時、教科書の内容を変更したいと何度も思いました。しかし、教科書に沿って授業をすることが求められていると現場の指導教員から指導されたとき、教員よりも教科書のほうが強いのだと感じ、悲しくなったことを思い出しました。学習指導要領の内容の理解を進め、教科書の内容をたどるだけでなく、本当に必要な学びを追求し、自信をもって授業を構築し、教壇に立てるように努力していきたいと思えます。

また、「trustの連鎖により、現場でも大きな自由を得ることができること」にも感銘を受けました。社会人を経験したからこそ、日本で働く人は声を上げられないことを実感しています。在職していたころの私は、上層部からの信頼を感じられず、自分自身の考えも信じることができなくなっていました。変化の激しい現代だからこそ、正解はなく、たくさんのアイデアを検討する必要があると思います。若い世代が、社会に出てからも、自分の思いや考えに自信をもって発言できるような、お互いに信頼し合えるあたたかい関係づくりに貢献したいと思えます。

最後に、「子どもも社会の一員であり、問題解決の当事者であること」にはっとさせられました。私たち日本人は、社会人になってやっと、社会の一員であることを意識させられるのではないかと思います。問題解決に向かう姿勢も人それぞれ様々で、現実の社会と結びついていないこともよくあると思います。問題解決に真正面から取り組む人が白い目で見られ、評価されない風潮もあります。私は、「意識高い系」という言葉が流行したころに大学生でしたが、意識が高いことの何が悪いのでしょうか。日本人の価値観がなぜこんな風になってしまったのか、これからの世代の価値観を変えるにはどうしたらいいのかを真剣に考え、全員が問題解決の当事者であることを意識できる方策を導き出し、実践に移したいと思えます。

研究課題：自律的に学ぶ学習者



講演を通して、私自身の考えを確立し、今後取り組んでいくことを明確にすることができました。私は、リスクリングを実践し、院で教育学を学び、学生のうちに多くの教育実習を行うなど、ヨーロッパの教員のたどる道や生涯学習社会モデルの道をとっています。ヨーロッパではない今の日本でこれをやり抜くことは、根性のいることかと思いますが、私は、私の信じた道を歩き、周囲に伝えていくことで、少しでも、これからの世代の日本人の選択肢を広げることにつながると思っています。上に挙げた決意も含め、目の前にある課題の一つひとつ丁寧に向き合い、社会の一員として、

目の前にある問題を、日本社会に受け入れられる形で解決できる人になれるよう精進します。(教職大学院生)

午後は「ちゃぶ台次世代コーホート」への乗り込み研修で大活躍でした!

学生や新任者、若手教員が集い、18年の歴史をもつ「ちゃぶ台次世代コーホート」で「ちょっと年上の先輩」として、実践発表、協議ファシリテーターや発表者として



「Leaning by doing!」研修を行いました。教職や教員の魅力、面白さや「やりがい」等について、豊かな経験を元に「よき先輩ぶり」を発揮してくれました。ありがとうございました。



連絡

次回は、11月3日(祝)、周南市徳山動物園でのフィールドワークと周南市立徳山駅前図書館での事例研究、講演です。講演の講師は平昌オリンピック(パラ)の金メダリスト。公開講座です。お楽しみに!



コーホート (cohort)

同一の性質を有する同年齢集団

→ 教職という立場や志でつながる同年代の仲間たち



山口県教員育成指標【教職】

■どのステージにおいても変わらず必要とされる「教職に必要な資質に関すること」

ステージ	ステージ0 【理解】	ステージ1 【実践】	ステージ2 【協働】	ステージ3 【リーダーシップ】
1 教職志望学生 養成	<ul style="list-style-type: none"> 内省やコミュニケーションにより、自分の人間性を理解する機会を確保している。 教職への志望を明確し、チームで取り組む姿勢を確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員、実務経験者、指導者等と対話し、コミュニケーションをとっている。 教職への志望を明確し、チームで取り組む姿勢を確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員、実務経験者、指導者等と対話し、コミュニケーションをとっている。 教職への志望を明確し、チームで取り組む姿勢を確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員、実務経験者、指導者等と対話し、コミュニケーションをとっている。 教職への志望を明確し、チームで取り組む姿勢を確立している。
2 臨時任用教員 任用	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と向き合う時間を確保するなどの、自身の成長機会を確保している。 教育現場の仕組みや役割、意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と向き合う中で、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 学校教育の目的や仕組み、意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員と協力し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 学校教育の目的や仕組み、意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員と協力し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 学校教育の目的や仕組み、意義について理解している。
3 初任者教員 採用	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場に立って、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。
4 若手教員 自立・向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と向き合う時間を確保するなどの、自身の成長機会を確保している。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と向き合う中で、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員と協力し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員と協力し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。
5 中堅教員 充実	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。
6 ベテラン・管理職教員 発展・伸長	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と向き合う時間を確保するなどの、自身の成長機会を確保している。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と向き合う中で、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員と協力し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員と協力し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。 自身の成長機会を確保し、他者からの支援を受け、実践に取り組んでいる。

- 第1回** 令和5年 6月17日(土) 13:00~17:30 **山口大学**
「山口県教育の現状と課題 ~山口県教育振興基本計画と教育諸施策~」
山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之
「困難や危機を乗り越えた学校がやったこと ~春日中学校のその時~」
追手門学院大学 教務課教職支援室 専任指導者
前 奈良県奈良市立春日中学校 校長 坂本静泰
セントコア山口
- 第2回** 令和5年 8月26日(土) 10:00~15:30 **セントコア山口**
「この国の強みを次世代につなぐ ~起業家精神をもって生きること~」
世界経済フォーラム(ダボス会議) ヤング・グローバル・シェイパーズ
株式会社和える(aeru) 代表取締役 矢島理佳
「私の学校、私の地域の未来予想図3(Café)」
山口大学「ちゃぶ台」スタッフ(教職員チーム)
- 第3回** 令和5年 10月14日(土) 10:00~12:00 **セントコア山口**
「フィンランドから眺めた令和の日本型学校教育」
信州大学大学院教育学研究科 教授 伏木久始



2023年度の研修計画 (予定:演題は全て仮題)

- 第4回** 令和5年 10月14日 (土) 13:00~17:30 セントコア山口
「私の教員人生から語る ~教職の魅力、喜びややりがい~」
ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員、スタッフ
- 第5回** 令和5年 11月 3日 (祝) 9:30~12:00 周南市徳山動物園
「フィールドワーク ~動物たちの生態と人との距離~」
周南市徳山動物園 園長補佐(獣医師) 木原一郎
- 第6回** 令和5年 11月 3日 (祝) 13:30~17:00
周南市徳山駅前図書館(JR徳山駅ビル)
「アスリートとして生きること ~不可能とは可能性のこと~」
平昌パラリンピック(CC、ミドルクラシカル)金メダリスト
2022-2023年シーズン「ワールドカップ(年間総合)」3位
日立ソリューションズ「チームAURORA」スキー部 新田佳浩
- 第7回** 令和5年 12月23日 (土) 10:00~12:30 セントコア山口
「学校の想い、親の想い、そして子どもたちの想い(保護者との座談会)」
山口県PTA連合会、山口県公立高等学校PTA連合会 役員

第8回 令和5年 12月23日 (土) 13:30~17:00 セントコア山口

「考える、動く、自由になる ~これからの学びや社会の姿~」

教育再生実行会議 委員、前 千代田区立麴町中学校 校長

横浜創英中学・高等学校 校長 工藤勇一

「私自身の未来予想図4 (Café)」

山口大学「ちゃぶ台」スタッフ (教職員チーム)

第9回 令和6年 2月10日 (土) 13:30~17:30 山口大学

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

特設 令和6年 3月16日 (土) 9:30~12:00 山口大学

「1年間の研修を振り返って (リフレクション研修会)」

第10回 令和6年 3月16日 (土) 13:00~17:30 山口大学

「インクルーシブ教育、特別支援教育の動向」

新潟大学教育研究院人文社会科学系教育学系列 教授 長澤正樹

